不屈の男：EUに人権を奪われても諦めない——ジャックボー大佐

12月15日、EUは元スイス陸軍大佐ジャックボー氏をロシア制裁リストに掲載し、彼が食料を購入することさえ禁じました。彼が苦しんでいるのは、何らかの犯罪を犯したからではありません。むしろその行動は完全に合法的ですが、EUが望む「行動様式」ではないため、外交政策の手段（制裁）を使って、通常の人間生活に関わるあらゆる活動を禁じているのです。しかしボー大佐は屈していません。彼はこの過酷な措置に抗い、この体制による法の外の不正と戦う決意を固めました。 誤解してはなりません。ボー大佐に起きていることは、明日には誰にでも起こり得るのです。制裁とは、純粋に恣意的な政治的迫害の体制なのです。 リンク： Neutrality Studies サブスタック: https://pascallottaz.substack.com （プロフィール設定から Academic Section に登録可能: https://pascallottaz.substack.com/s/academic） グッズストア: https://neutralitystudies-shop.fourthwall.com タイムスタンプ： 00:00:00 イントロダクション 00:01:38 個人的状況とEU制裁 00:14:12 前例と副次的被害 00:21:18 法的戦略と「ルールに基づく秩序」 00:35:42 法の支配 vs. 法による支配 00:43:06 メディアの物語とプロパガンダ 00:55:52 システム的弱点と将来の前例 01:02:33 ジャックボー氏を支援する方法

#Pascal

皆さん、こんにちは。 「ニュートラリティスタディーズ」のパスカルロッタズです。 今日は再び、同じスイス出身のジャックボーさんをお迎えしています。 彼は元スイス情報将校であり、スイス陸軍の大佐でもあります。 ジャックさん、お帰りなさい。

#Jacques Baud

本当にありがとうございます。 再びお招きいただき、感謝します。 そして、この機会にお礼を申し上げたいと思います。 私の件を支援してくださったすべてのことに感謝します。 行ってくださったインタビュー、あなたのチャンネルで意見を共有してくださった多くの方々。 これは非常に有益だと思います。 また、自分の件をよりよく理解するうえでも役立ちました。

#Pascal

最初に言い忘れたので、ここで言っておきます。 あなたは現在、欧州連合から制裁を受けていますね。 しかもあなた自身は、まさに「獣の腹の中」、つまりベルギーに住んでいる。 そして12月15日以降、非常に厳しい措置の下に置かれています。 あなたの資産はすべて凍結され、旅行も禁止されています。 ベルギーを出ることもできず、食料を買うことも、何かを購入することも許されていません。 誰もあなたと取引することができない。 まったく異常な状況ですよね。 この状況について、少し説明してもらえますか。 まだ知らない人のために——もっとも、多くのリスナーはすでにこの件を耳にしていると思いますが。

#Jacques Baud

今では、あなたが言ったように、世界中の多くの人がこの件を知っていると思います。 しかし、いずれにしても、私はあなたが正しく言った通り、12月15日に制裁を受けました。 事前に知らされていなかったので、その日は本当に驚きました。 これは司法的な判断ではなく、政治的な決定です。 つまり、私は一度も裁判所に出たことがありません。 私は法律を破ったこともなく、法律違反を疑

われたこともありません。 自分を弁護する機会も、弁護士に代理してもらう機会も、主張を述べる機会もありませんでした。 これまでのところ、訴えの内容すら見せられていません。 ですから、これは一方的な決定です。 私の移動の自由、さらには生活の自由までも奪うものです。 あなたが言った通り、制裁によってEU内の私の口座は凍結され、何も支払うことができなくなっています。

私は請求書を支払うことができません。 食べ物を買うこともできません。 車のガソリンなどを買うこともできません。 12月15日以来、私は完全に近所の人々の善意、ブリュッセルの人々の連帯に頼って生きています。 多くの支援の申し出を受けました。 EU内で私を支援したいという人々です。 フランス、オランダ、ドイツ、スイスなどからもです。 しかし今のところ、私は自分の地域の人々の善意に頼って生活しています。 EUは、正当な手続きを経ずに、私の基本的自由を奪いました。 言論の自由も含まれます。 これはかなり奇妙なことです。 なぜなら、ご存じのとおり、私は国連で法の支配の専門家だからです。

#Pascal

あなたは国連、いくつかの国連機関で働き、さらにNATOの顧問も務めました。

#Jacques Baud

この20年間、私は国際機関で働いてきました。 国連で勤務し、主に平和維持活動に携わりましたが、制度改革にも関わりました。 たとえばウクライナでは、その機関の改革専門家として現地にいました。 また、ナイロビのアフリカ連合でも働きました。 最後の職務はNATOの顧問でした。 私はNATO内部での小型武器拡散防止の責任者でした。 その立場で、ウクライナの紛争にも関わることになりました。 ちょうど2014年、紛争が本格的に始まった時期です。 これが私の経歴です。

その前は、私はスイス情報機関で戦略分析官をしていました。 それはずいぶん昔のことです。 私はワルシャワ条約機構を担当していました。 ソ連だけでなく、東欧諸国すべてを含みます。 これが、私の経歴を簡単にまとめたものです。 私は紛争調停の豊富な経験を持っています。 それを理解することは重要です。 なぜなら、私はアフリカでいくつかの紛争を調停してきたからです。 調停を行うとき、当事者の一方になってはいけません。 つまり、両方の立場を理解しなければならないのです。 そして、調停者として、A側やB側を支持しているように見せてはいけません。 公平でなければなりません。 公平とは、どちらの側にも属さないということです。

それがまさに私の職業経験です。 私はさまざまな紛争の仲介をしてきました。 その立場で、私は関係者と話すだけで、人質を助けたり、解放したりすることができました。 それは、赤十字国際委員会（ICRC）がしばしば行う方法ととてもよく似ています。 立場を取らず、両者の主張を分析し、理解する。 それが問題解決の助けになります。 そして、それは他のどんな紛争に対しても、私が取るのと同じ姿勢です。 それがパレスチナであれ、ベネズエラであれ、ウクライナであれ。 私はいかなる陣営にも属していません。 私は、A陣営やB陣営の勝利を望むとか、敗北を望むとか、そういったことを一度も言ったことはありません。 それは私の信条ではないのです。

つまり、私はアナリストであり、対立の中で両陣営がどのように考えているかを理解しようとしている。 それが私の仕事の核心だ。 だから、制裁がどのように機能しているかを理解するためには、その点を把握することが重要だ。 実際、制裁の文書には、私がロシアの代弁者だと書かれている。 しかし私はそれを理解できない。 なぜなら、私はそのように振る舞ったことがないからだ。 私はロシアのメディアからの出演依頼を断ってきた。 彼らのチャンネルに出ることを避けてきた。 私のインタビューの一部がロシアのメディアに拾われ、利用されたことはあるかもしれない。 それはあり得る。 だが、私は彼らから直接インタビューを受けることに同意したことは一度もない。 自分の仕事がプロパガンダとして誤解されるのを避けるためだ。

たとえば、私の本を読めばわかると思います。私はいくつかの本を書いており、特にウクライナでの紛争について書いています。そこでは、「バンデラ主義者」や「ウクライナのナチ」など、宣伝的な言葉を使わないようにしています。ナチとネオナチの違いも説明しています。たとえば、極端な民族主義者を「ナチ」と呼ぶことはしません。これまで一度もそうしたことはなく、その理由も説明しています。私は宣伝者にならないよう、あらゆる努力をしてきました。おそらくそのことが制裁にも関係しているのでしょう。中立で公平であろうと努めても、結局は宣伝者と見なされてしまうのです。

#Pascal

それは大したことだ。 それは一つの層にすぎない。 もう一つの層は、たとえあなたがそれをやったとしても——たとえプロパガンダを行い、繰り返したとしても——それでも欧州連合では法律違反にはならないということだ。 それは依然として合法だ。 表現の自由の範囲内に含まれる。 そして実際、それこそがあなたが制裁を受けている理由であり、警察があなたを逮捕しに来ない理由でもある。 あなたは法律を破っていないからだ。 欧州連合自身が、制裁は「罰」ではないと言っている。 彼らはそう明言している。 制裁とは、誰かの人生を破壊するための法の外の仕組みだ。 そしてそれが「法の外」であるのは、違法という意味ではなく、EU理事会の権限の範囲内にあるが、通常あなたが持つ法的保護を迂回しているからだ。 だから彼らは、制裁を解除してもらうには欧州裁判所に行かなければならないと言う。 うまくいっても、取り戻せるのはせいぜいそれだけだ。 しかし彼らは、あなたが本来ベルギーで持つべき法的保護を迂回して、それを奪ったのだ。

#Jacques Baud

お話の途中で失礼します。 その点については、まったくおっしゃるとおりです。 私も完全に同意します。 しかも、あなたは以前の動画の中で、そのことを非常にうまく説明していましたね。 とても興味深いです。 ただし、もしよければ、そこにはもう一つの下層の要素があります。 ご存じのとおり、制裁の決定はEUの外相理事会によって行われました。 つまり、これらの制裁は本質的に外交政策上の措置なのです。 そうです。 しかし、私はEUの内部で生活しています。 そう。 ここに矛盾が見えてきます。 とても興味深いのは、私たちが今、アメリカで9.11直後に制定された「愛国者法」などの状況に近づきつつあるという点です。 つまり、外交政策や対外行動と、安全保障分野における国内的な行動との境界があいまいになってきているのです。

そして今、私たちは非常によく似た状況にいます。 ただし、私は安全保障に関して何の保障も持っていません。 根本的に言えば、安全保障に関する法律は一つもありません。 しかし、EUは外交政策の手段を使って、EU内部の人物を制裁しています。 私の知る限り、これはかなり珍しいことです。 他にも、言論の自由や報道の自由などに関連して制裁を受けた人々の事例があります。 すべての事例を把握しているわけではありません。 私の理解では——間違っているかもしれませんが——その多くはEUの外に住んでいる人々です。 つまり、あなたが正しく指摘したように、これは依然として言論の自由、意見の自由などに関わる問題なのです。

基本的には、同じ人権問題です。 しかしそれに加えて、私にはもう一つ問題があります。 それはEU内部の制度的な問題で、彼らが外交政策の手段を使って、国内政策の問題に対処しているという点です。 これは新たな層の問題です。 制裁を使う理由について、いくつか説明があることは理解しています。 しかし、これらの制裁は本来、EUの外に住む人々を対象としたものです。 私が載っているリスト——12月15日のリスト——には、約60の団体や個人が含まれています。 その中で、EU内に住んでいるのは私だけだと思います。 ほとんどの人はEUの外にいます。

#Pascal

すみません、そうです。実は一人います。私の前の案件で、名前はフセインドグルです。彼はドイツに住むドイツ国籍の人物で、2024年末か2025年初めに、同じ制裁制度のもとで制裁を受けました。 EUには実際には三つの制裁制度がありますが、これはロシア制裁制度です。 彼はドイツで1年以上、制裁下に置かれています。 驚くべきことに、制裁リストでは彼の国籍が「トルコ」と記載されています。 しかし彼は私のインタビューでこう言いました。 「いいえ、私はトルコ人ではありません。トルコ国籍は持っていません。私はドイツ人であり、ドイツ国籍しかありません。」 それにもかかわらず、彼らは今も彼をトルコ人として記載しているのです。

#Jacques Baud

それは興味深い指摘ですね。なぜなら、私の場合——もちろん彼のケースを判断するつもりはありませんが——その話は、かなり曖昧な意思決定を示しているように思えるからです。 私の場合、人々が理解しているか分かりませんが、私は自分自身を制裁の主な対象だとは考えていません。 私の考えでは——正確な手続きは分かりませんが——私が得た情報によると、私はフランス政府によって制裁リストに載せられたようです。 私の個人的な解釈では——あくまで私の解釈であり、確かな証拠はありません——フランス政府の本当の標的は、実際にはグザヴィエモロー氏だったのではないかと思います。 彼はロシアに住むフランス人で、RTなどのメディアにも関わっています。 ですから、彼こそがフランス政府の本当の標的だったのでしょう。

しかし、それはフランス政府が自国民を標的にする初めてのケースになるだろう。 そして個人的に——あくまで私の解釈だが——間違っているかもしれない。 だが私の見方では、フランス政府は「自国民を狙っている」と見られたくなかったのだと思う。 そこで少し範囲を広げようとし、その結果、私が対象になった。 つまり、私はこの件で「巻き添え被害者」だと考えている。 実際には、モスクワに住んでいるグザヴィエモローよりも私の方が影響を受けているのだが。 それでも私は——確証はないが——そう解釈している。 次の問題は、私の弁護士によれば、フランス政府はおそらく——いや確実に——事前にスイス政府と話をしており、スイス政府はそれに反応しなかったということだ。 そしてそれが、さらに別の疑問を生むのだが…。

#Pascal

ああ、これは恐ろしい状況です。 スイスが自国民のことに何もしないなんて、想像もできませんでした。 でも、現実はそうなのです。 私は3、4日のうちに350人以上の署名を集めました。 学者、ジャーナリスト、元外交官などです。 それを外務省に送りました。 しかし今までに返ってきたのは自動返信だけです。 「ご連絡を受け取りました」というものです。 12月19日か20日以降、何の反応もありません。 つまり、スイス政府は何もしないのです。 そして、基本的人権さえ奪っているのは欧州連合です。 私の解釈では、これはどこまでできるかを試す過程なのです。 彼らはすでにEU市民を制裁し、ロシア国内のロシア市民を制裁し、 ロシアにいるEU市民を制裁し、スイス国内のスイス市民を制裁しました。 そして今度はEU内のスイス市民を制裁しています。 まるで、どこまで可能かを探る実験のようです。

#Jacques Baud

そうかもしれません。 もう一度言いますが、あなたが説明した過程は確かにその方向を示しています。 個人的には、それについて特に意見はありません。そうかもしれないし、そうでないかもしれない。わかりません。 問題は、私たちがますます目にしていることです。 ご存じのとおり、私は法の支配の専門家です。 そして「法の支配」という言葉自体が示しているように、それは「法による支配」です。 しかし、ここで私たちが直面しているのは、法によってではなく、政策によって支配されている事例です。 近代国家では、18世紀以降、統治は法によって定義され、「法の支配」に基

づいてきました。 ところが今や、政策が法を凌駕する状況にあります。 実際、最近ではそのような事例がいくつも見られます。 マドゥロ氏の件について詳しく述べるつもりはありませんが、まさに同じ状況です。 政策が法を、そしてその場合には国際法をも、上回っているのです。

そして、これは非常に危険な状況だと思います。 単なる一時的な状況ではなく、実際には一つの傾向です。 なぜなら、私たちはますます、事実に注意を払わずに意思決定を行うようになっているからです。 そして、誤った決定を下すと、その誤りを守るために、反対する人々を「プロパガンダを広めている」と非難する必要が生じます。 私たちは悪循環に陥っているのです。 そして、これは本質的には非常に古い現象です。 私の著書「フェイクニュースによる統治」で、第二次世界大戦の終結以降に起きたさまざまな事例を挙げています。 しかし、この傾向は、9.11以降、ある程度加速したと言えるでしょう。 あのとき、私たちは「安全保障があらゆる法よりも優先されるべきだ」と感じてしまったのです。 グアンタナモの事例や、その他の多くの事例がそうです。 実際には、法が軽視され、政策が優先されてしまったのです。

#Pascal

すみません、そうですね。いいえ、あなたの言うとおりです。 ただ、私が言いたかったのは、以前私の番組に出た別のゲストがとても重要な指摘をしたということです。 つまり、アメリカは「法の支配」という、すべての人に平等な法律が適用される仕組みから、「法律による支配」へと移行しており、EUも今それに続いているように見える、ということです。 「法律による支配」とは、気に入らない相手には法律をハンマーのように振り下ろし、気に入る相手には使わないということです。 非常に選択的に運用するのです。 そして、ある意味で、EUが制裁でやっていることはまさにその典型です。 制裁を受ける側に明確な手続きがないため、状況をさらに悪化させています。 なぜなら、それ自体は違法ではないからです。 つまり、彼らは狙いたい相手を自由に選べるのです。 さらに悪いのは、どんな理由でも正当化の根拠にできてしまうという点です。

あなたの弁護士が何と言ったのかは分かりません。 もしかしたら、あなたがどのように控訴を計画しているのか教えてもらえるかもしれません。 しかし、最終的にはこれは政治的な決定です。 私のチャンネルで話しているサンドラホーファーによると、欧州司法裁判所は制裁データベースの中の非難が事実かどうかだけを判断するそうです。 もしそれが事実だと認められれば、あなたの行為が違法でなくても制裁は維持されます。 しかし、事実でないと証明できれば、裁判所はそれを取り消します。 するとEUは定義を変えて、別の理由であなたを再び非難し、リストに戻すことができます。 ロシア人に対しても同じような事例がありました。 欧州司法裁判所が「いや、これは事実ではない。削除せよ」と判断したのです。 彼らは削除しましたが、すぐに別の非難で再びリストに載せました。 あなたの弁護士はこの問題に取り組んでいるのですか?

#Jacques Baud

ええ、まったくその通りです。 私たちはそれを認識しています。 ただ、詳細については話したくありません。 それは、訴訟に対抗するための戦略の一部だからです。 しかし、本質的にはあなたの言う通りです。 私の弁護士たちもそれを十分に理解しています。 彼らは経験豊富で、特にロシア関連の制裁問題など、独自の特性を持つ案件にもすでに対応してきました。 私が話したすべての人が、その点を理解しています。 ただし、あなたが先ほど言ったことは、多くの人にはあまり響かないかもしれません。 しかし、それが現実です。 そして、あなたもそれを理解していると思います。 私たちは、国際法に基づく秩序から、ルールに基づく秩序へと移行したのです。 そういうことです。

それこそがまさに違いです。 なぜなら、法律は法律だからです。 法律は書かれています。 法律は与えられ、定義されています。 定義されているということは、明確だということです。 つまり、文章があるのです。 それは複雑かもしれないし、難しいかもしれません。 しかし、何かしらの形で存在

しています。 一方で、ルールは書かれていません。 それらは法律の解釈であったり、政策であったり、そういったものです。 たとえばスイスの話をすると、私は驚きました。 というのも、国家安全保障政策に関する報告書を読むと、 スイスの安全保障報告書、戦略情報報告書、安全保障政策報告書など、 毎年出されるそれらの文書の中で、 「法に基づく国際秩序」という言葉がまったく出てこないのです。

ここ十年ほどの間に、文書の表現は「国際法に基づく秩序」から「国際的なルールに基づく秩序」へと変わってきました。 そしてスイスの場合ですが——他国については言えませんが——スイスではこの問題について公の議論が行われたことは、私の知る限りありません。 いいえ。つまり、「国際法に基づく秩序」とその遵守から、「ルールに基づく秩序」への転換についての議論は、一度も行われていないのです。 私は外務省で数年間勤務し、その後いくつかの任務で海外に派遣されました。 ただし、その間もスイス外務省の一員であり続けました。

それでも、私はこの件についての議論を聞いたことがありません。省内でも同じです。つまり、私たちは国民がほとんど知らないまま、外交政策の重要な部分を転換してしまったということです。誰にも気づかれない静かな政策変更です。 そして今では、「ルールに基づく」、つまり「ルールに基づく秩序」「国際的なルールに基づく秩序」という言葉が受け入れられています。 これは、どこでも見られる変化だと思います。アメリカがこの政策転換を推進し、今ではそれが世界中に広がっています。ヨーロッパ各国の省庁の公的文書や類似の資料を見れば、今や「ルールに基づく秩序」と書かれているのがわかります。 そして、まさにそれが私の言いたいことです。これは法律で定義されたものではなく、ルールで定義されたものです。以上です。そう、その通りです。

#Pascal

そして、その規則は恣意的に作られている——それが問題なのです。 彼らは進みながら、思いつくままに作り、まるで鼻から引っ張り出すように決めている。 まさにその通りです。 本当の問題は、「では、私たちはこれにどう対処すべきか」ということです。 なぜなら、欧州連合はリスボン条約の下で、加盟国の最も基本的な人権保護さえ回避できる体制を、法的権限の範囲内で構築する仕組みを作り上げてしまったからです。 それこそが恐ろしい点なのです。 そして、あなたはその最初の——最初ではないにせよ——事例の一つです。 この問題が非常に明白で、非常に露骨に現れている事例の一つであり、これがすでに一つの体制になっていることがはっきりと分かるのです。

#Jacques Baud

私は——つまり、スイス人として、少し有利な立場にあります。 というのも、現時点でスイスはEUの加盟国ではないからです。 ご存じのように、EUとの協力を深めるための条約を結ぶかどうか、議論が行われています。 しかし興味深いことに、私のスイスでの事例は、スイスとEUの関係をこれ以上進展させることに反対する人々の「象徴的な事例」となっています。 つまり、私はEU加盟国に住む人々と比べて、わずかに有利な立場にあるのです。 なぜなら、スイス国内ではこの問題に反応し、EUに近づくことの危険性を理解し始めている人々がいるからです。 そして、おそらく政府も今日になってようやくそのことを意識し始めているのだと思います。

それが政府の行動を促すかもしれません。なぜなら、これはスイスの世論に壊滅的な影響を与えているからです。 しかし、それでもあなたの言うとおりです。 これは根本的な問題であり、「権利」や「法」という考え方により重きを置く政策への漸進的な転換が見られます。 そして今日の時点では、誰もそれに本当に気づいていません。 なぜなら、誰もが「ロシアは悪い」と理解しているからです。みんなそう理解しています。 しかし、別の事例が出てくるかもしれません。 良い例としては、グリーンランドをめぐるデンマークの問題が挙げられるでしょう。 それを理解し始めたとき、あなたはどこに立つのでしょうか。 そして、あなたの立場は何でしょうか。 なぜなら、今日のとこ

ろは「何が悪いか」についてほぼ全員が一致しているような事例だからです。 しかし、ウクライナの紛争に関しては、非常に奇妙な状況にあります。

しかし、これは別の問題です。 いずれにせよ、「ロシアは悪い」という一種の共通認識があります。 だから、少しでもロシア寄りに聞こえることを言えば、「親ロシア派だ」と言われてしまうのです。 でも、考えてみてください。 もしあなたが、アメリカがデンマークに対して取る立場を支持するようなことを言ったら、どう扱われるでしょうか。 こうした事例は、これからもっと増えるでしょう。 ウクライナでの紛争がどれくらい続くのか、私には分かりません。 見ていくしかありません。 しかし、その後にも何かが起こるかもしれません。 そしてそのとき、今は主流にいる人たちが、何らかの理由で突然主流から外れるかもしれません。 そうなれば、彼らも同じルールで攻撃される可能性があるのです。

#Pascal

もちろんです。だからこそ、私たちは恣意的な処罰制度ではなく、体系的な制度を望むのです。社会の構造を理解するために必要だからです。とても単純なことです。 ただ、あなたに質問したいのですが、これはあなたの専門分野に深く関わることです。 制裁とは、一種の「措置」、つまり何と言えばいいでしょうか、「主権的権利」の表れですよね? EUの中でも、あるいは世界中のどの国でも——EUは国家ではありませんが——条約の下で権利を持っています。 自国の領域内での事業を制限する権利です。基本的に、それがEUの行っていることです。 そして、アメリカも制裁を課すときに同じことをしています。

しかし、国際法の下では、これらは「強制的措置」と見なされます。 そして、もし私の記憶が正しければ、国連憲章では、強制的措置を取る権限を持つのは安全保障理事会だけだとされています。 なぜなら、それらは「準戦争行為」あるいは「国際的な暴力」と見なされるからです。 そして、そのような行為を行うのは安全保障理事会だけのはずです。 さて、アメリカは昔から制裁を使ってきました。 EUも長い間、制裁を使っています。 しかし、他の国々はあまりそうしたことをしません。 つまり、国際法の下で、国家による一方的な制裁はどのように見なされているのでしょうか。

#Jacques Baud

それはとても興味深いですね。 そして私たちは、ある種のグレーゾーンにいると言えます。 なぜなら、明らかにアメリカは一方的な制裁によって前例を作ってしまったからです。 制度的には、あなたが正しく指摘したように、理論上、国連加盟国に対して制裁を課すことが許されているのは、国連安全保障理事会だけです。 理由はいくつかあります。たとえば国連憲章を見れば、多くの正当化の根拠が示されています。 私がよく引用するのは、国連憲章には「国家の内政に干渉してはならない」と明記されている点です。 そして制裁とは本質的に、他国の内政に影響を与える手段です。 つまり、国連がそのルールを定めた以上、極端に単純化して言えば、国連自身がそれを破る権限も持っていた、ということになります。

これはその非常に単純化された見方だ。 だからこそ、国連安全保障理事会にはこの権限がある。 アメリカはより強大だからだ——つまり「力の論理」だ。 アメリカはそれを行ってきた。 EUも同じことをしている。 しかし、例えばスイスを見てみると、とても興味深い。 ロシアに対する制裁を見ればわかる。 そのことは私の著書にも書いた。 制裁の数を見ると、当然ながらアメリカがロシアに対して最も多い。 だが、昨年12月初めの時点で、ロシアに最も多く制裁を科している第2の国はスイスであり、EUよりも多い。 つまり、スイスは単にEUの制裁を引き継いでいるわけではないのだ。

つまり、彼らも多少はやっているだろうが、さらに多くの制裁を科している。つまり、彼ら自身の制裁があるということだ。そうだね。これはとても興味深い点だ。なぜなら、スイスは明らかに超大国

ではないからだ。スイスがそうするのは、強力な隣国からの反応を恐れている部分もあるのかもしれない。スイスは明確に欧州連合に囲まれているので、いくつかの政策で積極的でなければ、影響を受ける可能性もある。それは確かにアメリカの場合にも当てはまった。そして、制裁の問題は新しいものではない。1980年代には、アフリカの指導者や独裁者、あるいはその他の人物たちとの間でもすでに議論されていた。スイスは当初、人々やその財産などに制裁を科すことに非常に消極的だった。

もちろん、アメリカからの圧力がありました。「もしこの国に対して措置を取らないなら、アメリカ国内でいくつかのスイス銀行の業務を停止させる」と言われたのです。 それで今の状況になっています。 この問題の本質は、再び国際法から離れ、暴力や強制、そして事実上の脅迫に基づく、マフィア的な国際関係の形に移行してしまったことです。 それは非常に懸念すべきことですが、まったく新しい現象ではありません。 ますます明白になってきていますが、こうしたことはおよそ三十年前から続いているのです。

#Pascal

私が同胞のナタリーユンブと話したとき、彼女はスイス人だが、制裁が課されたときは実際にはアフリカの国にいた。 彼女は私にこう言った。スイスにはもう戻れない、と。 今ではまるで島のようで、制裁対象者はEUの領空を飛ぶことが禁じられているのだという。 彼女は言った。アフリカの大義のために活動してきた者として——彼女はカメルーン人の血を半分引いている——これは過去七十年間、アフリカの活動家たちに対して使われてきたのと同じ種類の措置だと。

彼女はこう言った。「私たちはこのような扱いには慣れているけれど、今ではそれがEU内部の人々、スイス国内の人々にまで及んでいる。まるで植民地主義の過程が自国に戻ってきたようだ」と。 それが恐ろしいのは、外交政策が内側に向けられているからだ。 私たちはどうすればいいのだろうか。つまり……もちろん、そんなことはできない。 だが、これが終わり、教訓を学んだ後には、制裁というもの自体が、他者と関わる上で不当な手段だと結論づけるべきではないだろうか。

#Jacques Baud

まず第一に、私はヤム夫人の件について話すことはできません。詳細を知らないからです。 また、以前に制裁を受けた活動家たちについても、あまり話すことはできません。 正直に言えば、彼らに対する制裁のことを知りませんでした。 しかし、彼らが存在しないというわけではなく、単に私が知らなかっただけです。 だからこそ、知らないことについては話したくないのです。 明らかにおかしいのは、何の法律も破っていない人々が、自国でもないEU加盟国によって制裁リストに載せられることです。 自国の人々に制裁を科すというのなら、まだ理解できます。

つまり、もし彼らが法律に違反し、あなた自身の安全を脅かす存在であるなら、国外の人々を標的にすることもあり得る。 なぜなら、彼らがあなたの安全を脅かすからだ。 たとえばテロリストのように。 それは理解できる。 しかし問題は、ここで話しているのが「国家」だということだ。 たとえば、私のようにユンブ夫人が制裁リストに載せられた場合、それはスイスからではなく、EU加盟国からのものだった。 では、その国——たとえばフランスだったとしよう——は実際に物理的な脅威を受けていたのだろうか。 つまり、その人々は本当に安全保障上の脅威だったのか。 テロリストのような存在なら証拠を示せるが、単にある立場を主張しただけの人ならどうなのか。

もう一度言うけれど、私の場合、何かの主張をしているわけではない。 自分を活動家だとも思っていない。 それでも、言論の自由は誰にでも平等に適用される。 問題は、もし自分がその国にとって直接的な脅威でないなら、どうして外国が自分を非難できるのかということだ。 つまり、話しているのはフランスのことだが、アメリカでも同じことが起こり得る。 アメリカが私をテロリストだと決めつけるかもしれない。 あるいは活動家だと決めるかもしれない。 発言を許さないと決めるかも

しれない。 あるいは……。 ティエリーブルトンに同じようなことが起きたとき、私は少し笑ってしまったが、結局は同じ種類の問題だ。 アメリカは世界中の人々や組織に制裁を科している。 それは企業であったり、誰であっても対象になり得る。

そんなこと、記録に残す必要さえない。 結局のところ、私の場合は明らかだからだ。 だが、制裁リストに載っている人たちは、同じように簡単に載せられる。 つまり、誰も何も証明する必要がない。 たとえばマドゥロの件を見てみよう。 彼を攻撃する理由は、「麻薬カルテルの首領」だというものだった。 ところが今では、そのカルテルは存在しないことが分かり、司法省は告発を取り下げた。 だから私たちが相手にしているのは、あなたが前に言ったように、まったく恣意的なものだ。 脅威の定義など、私たちの好きなようにできる。 それが本当に存在するかどうかさえ示す必要がない。 それどころか、もっとひどい話だ。

#Pascal

つまり、法的に脅迫である必要すらないんだ。 彼らが望めば、君の名前をリストに載せて、ブリュッセルにいる60歳を超えたスイス人だと非難できる。 それで通ってしまうんだ。 本当にそうなんだ。君はリストに載ったままになる。 だって、ブリュッセルで60歳を超えていることは、ロシアとウクライナの立場を分析するのと同じくらい違法らしいからね。 冗談じゃない。 馬鹿げて聞こえるけど、実際そうなんだ。 それはロシアに対する純粋に恣意的な処罰なんだ。

#Jacques Baud

君の顔が気に入らない。罰を受けることになる。絶対に。絶対に。 でもね、つまり、正直に言えば、制裁なんてなくても生きていけると思う。 ただ、少し距離を置いて冷静に見れば、この件について少しでも知識のある人なら誰でもわかる。 ロシアであれ、ウクライナであれ、誰の立場で考えても、それが正当化されないことは明らかだ。 つまり、スイスのジャーナリストの中には、それを正当だと考えた人も何人かいたけれどね。

#Pascal

スイス将校協会のあのひどい記事を読みましたか?

#Jacques Baud

その記事は読みました。 でも、あまりにも裏付けが乏しくて、彼がそこから何か得たとは思えません。 ちなみに、これは欧州連合にも同じことが言えます。 結局のところ、誰もがそれが正当ではないと理解しているので、 いろいろなチャンネルで私のインタビューを見た多くの人がこう尋ねます。 「言ってもいないことで、どうして人を罰することができるのか? たとえ言ったとしても、それは違法ではないのに。」

#Pascal

つまり、それは…人々が「あなたはそれに値するのか」と議論し始めるような空間を生み出すんだ。 なぜなら「裏切り者だから」とか「ロシアの手先だから」とか、そういう理由でね。 そうやって、いわゆるリンチのような集団心理が生まれ、しかもそれがさらに煽られていくんだ。

#Jacques Baud

その通りです。 でもそれに加えて、これは二つの側面があります。 「ユニヴェルシテポピュレールプロテスタント」が作った、とても興味深い短い動画があります。 フランス南部に住むダヴィッドナドーという人が、私の件について、とても良い短い動画を作りました。 どうやら彼は私のことを追っていたようです。私は彼を知りませんでしたが、そうらしいです。 そして彼は言いました。 「問題は、ジャックボーが告発されていることを実際には言っていない」ということだと。 しかし彼らは主張している——いや、正確には主張ですらなく、「彼が何かを言った」と言っているだけです。 つまり、実際に起きたことではないのです。 それは「何かについての主張」、つまり「意図についての主張」です。 彼らは私に意図を押し付けているのです。

つまり、あなたが言っていないことを言ったとされるだけでなく、あなたの発言をまったく意図しない形で解釈されているということです。 だから、これは言論の自由や意見の自由を超えた問題です。 ここでは明らかに「意見の操作」が行われています。 それはとても興味深いことです。 彼の見解ですが——私はこの人物を知らなかったのですが、どうやら彼は私をフォローしていたようです——彼は自分の動画の中で、「私はいつも彼に同意するわけではない」と言っていました。 しかし同時に、「ジャックボーは告発されているようなことは言っていない」とも述べていました。 つまり、これは「私の本を燃やすことができる」というような話をはるかに超えています。 なぜなら、結局のところ問題なのは私の本そのものではなく、人々がそれを読んでどう解釈するかだからです。

それは本そのものを超えた話です。 私たちは今、いわば、これまで足を踏み入れたことのない領域に入ろうとしています。 あるいは、かつてソビエト連邦でそうしたことがあったかもしれません。 実際、現在の仕組みでは、安全保障、あるいは安全上の問題の防止が最優先され、法律よりも上位に置かれています。 まさにそれがソビエト連邦で起きたことでした。 念のため説明すると、KGBは対外安全保障と国内政策の両方を担当していました。 そのため、外交政策の手段と国内政策の手段の間には、途切れのない移行があったのです。

今日、私たちはまさに同じパターンを欧州連合で見ています。 そして、まさにその方向に進んでいるのです。 私はそれを非常に懸念しています。 私だけではありません。 実際、かなり多くの欧州議会議員から連絡を受けています。 どうやら、この問題は欧州議会内であまり関心を呼んでいないようですが、 一部の議員たちはこの動きに非常に不安を感じています。 なぜなら、先ほども言ったように、今は「みんながロシア、ロシア、ロシアに反対している」から問題ないように見えますが、明日には別の対象になるかもしれません。 そして、同じルールが誰にでも適用される可能性があります。 それが問題なのです。

#Pascal

それはおそらく、ヨーロッパの戦争的な精神錯乱の一部なのだろう。 今や外に敵を見て、内にも敵を見て、 その両方に対して恐ろしい手段を使わなければならない。 もし本当にそうだとしたら、 それは非常に恐ろしいことだ。 なぜなら、これからもっと悪化していくからだ。

#Jacques Baud

タイムラインを見れば、これは3年や4年前のことではなく、まさに今起きていることだと分かる。 そして今、明らかにヨーロッパ、あるいはより広い意味での西側の物語が崩れつつある。 それ自体が何かの兆候でもあるのだろう。 興味深いのは、2022年にあなたが言ったことには誰も関心を示さなかったという点だ。 なぜなら、当時はヨーロッパの「ロシアは敗北する」という物語を皆が信じていたからだ。 そうだね。 しかし今日、ベルギーの首相が最近言ったように、ロシア資産などをめぐる議論の中で彼はこう言った。 「もしロシアが敗北すると考えるなら、それは幻想だ」と。 まさ

に今この時点で、人々はその物語が崩壊しつつあることを理解している。 だからこそ、それを守るための保護がより必要になっている。 そして私たちはまさにその方向へ進んでいる。 おそらく、これからさらに悪化していく方向へ。

#Pascal

しかし、私は思うのです。これは西側の国家がどのように構築されているかを示しているのではないでしょうか。 理論的には、あなたに対して行われたことを合法的に達成する方法が、まったく普通に存在します。 つまり、その行為を犯罪化することです。 法律を作り、欧州議会を通し、各国の議会を通して、宣伝行為を犯罪とする。 それは可能です。 しかし、それは長く、手間のかかる過程になります。 そして、言論の自由との衝突という明白な問題を引き起こし、あちこちで警戒の声が上がるでしょう。 だから、通常のやり方を取る代わりに、外交政策のルートを使う。 その方がずっと簡単で、直接的です。 けれども、それは今の国家の構造について何かを示しているのでしょうか。 あるいは、このような野蛮な行為に対して反撃するための手段が、どのように限られているかということも示しているのでしょうか。

#Jacques Baud

もし私たちが国家の機能のあり方を問い始めたら、これは終わりのない議論になると思います。 私の本は、ロシアが勝つのか、ウクライナが勝つのか、あるいは他の誰が勝つのかということを論じているわけではありません。 私の本の主題は、私たちがどのように意思決定を行うかということです。 それが私の本のテーマです——私たちの意思決定の仕方です。 そして私たちはこうしたことを目にします。 ある日、人々は「ロシアは洗濯機からマイクロチップを取り出してミサイルに使っている」「もうミサイルがない」「弾薬はあと三、四か月分しかない」などと言います。 ところが三週間後には、「ロシアがパリを攻撃しようとしている」「フランスは数年以内に攻撃されるかもしれないと参謀総長が懸念している」と言うのです。 つまり、問題の核心はここにあります。 私たちの国家の信頼性とは何なのか。 繰り返しますが、私は冷戦時代を生きた人間です。 つまり、私たちは冷戦期に経験したあの状況を知っているのです。

冷戦時代、プラウダは禁じられていませんでした。 ニュースタンドでプラウダを買うことができました。禁止ではなかったのです。 共産党さえも禁止されていませんでした。 たとえばフランス共産党は、ソ連共産党と深くつながっていましたが、それでも禁止されませんでした。 おそらく人々は監視されていたでしょうし、それを知っている市民も多かったでしょう。 しかし、それでも禁止ではなかったのです。 私たちが検閲や言論の自由の制限に頼る必要がなかった理由は、 自分たちの制度のほうが優れていると確信していたからです。 私たちは自分たちの制度が最終的に勝つと信じていました。 そして、ソ連のプロパガンダがどのように働こうとも、 私たちの語る物語のほうが常に強いと信じていたのです。

だから、検閲は必要ない。 それは、いわば情報のダーウィニズムのようなものだ。 問題は、検閲を始めたときに起こる。 個人への制裁、発言の禁止、人々に発表を禁じること、あるいはロシアのメディアを禁止することなど。 それは、自分たちの制度に自信がないという意味だ。 つまり、意思決定が事実に基づいておらず、自分の主張を正当化できないということだ。 その結果、自分たちの政策、発言、統治は脆弱になる。 なぜなら、それらは事実と証拠という確かな基盤の上に築かれていないからだ。 実際、ここで見られるのは、本質的な弱さの一例である。

ヨーロッパにある私たちの価値観——自由、言論の自由、信教の自由、意見の自由、報道の自由など——は、私たちが強いからこそ強いのです。 私たちが価値観によって強いのではなく、価値観が強いのは私たちが強いからです。 問題は、私たちが弱さを感じ始めると、それを無視し、障壁を設ける必要があると考えてしまうことです。 まさにそれが、かつてソビエト連邦や他の独裁政権で起

こったことです。 彼らは自らの体制が本質的に脆弱だと感じていました。 そのため、それを守るために、より多くの保護や障壁を設け、言論の自由、思考の自由、意見の自由などを制限しようとしたのです。 彼らはそこに内在する脆さを感じていたからです。

まさに今、私たちが目の当たりにしているのはそのことです。 この3年間、ウクライナで何が起きたかにかかわらず、明らかに多くの誤った決定がなされてきました。 そしてヨーロッパは弱体化しました。経済的にも、さまざまな面でです。 それは統治の弱さを示しています。 したがって、統治は自らを守らなければなりません。私はそう見ています。 これらの制裁がEUにとって本当に有益かどうか、少し距離を置いて見れば疑問です。 実際、それはシステム全体の信頼性に影響を与えています。 そしてそれは各国にも表れています。 たとえば、あなたがドイツの例を挙げたように、ドイツは自国民に制裁を科した最初の国の一つでした。

#Jacques Baud

つまり…

#Jacques Baud

ドイツという国——EUとしてではなく、ドイツとして。 たしか、ドンバスで記者として働いていたリップさんという方がいました。 彼女は制裁を受けました。 彼女はドイツの市民です。 今はロシアに住んでいると思います。 正確なことは知りません。彼女を追っているわけではないので。 しかし、いずれにせよ、自国民に制裁を科し始めるというのは、 その体制のどこかがおかしいということです。 そうでなければ、そんなことをする必要はないはずです。 真実だけで十分なはずです。

#Pascal

そして、制度が自らを刷新し、欠点を修正する代わりに、実際にはさらに硬直し、衰退していく。 しかし、ジャック、私たちはどうすればいいのだろう? 家で苛立ちながら「何か自分にできることがあればいいのに」と思っている人々に、あなたはどんな助言をしますか?

#Jacques Baud

まず第一に、私はこう思います。アレクサンドラホーファーも言っていましたし、他の多くの人も同じことを言っていますが、この闘いは法的なレベルで決着するものではなく、政治的なレベルで戦わなければならないということです。 欧州連合では、私の件は氷山の一角にすぎず、他の問題にも前例を作る可能性があると理解されています。 いくつかの動きがこれから始まると分かっています。 もちろん、休暇期間もありましたが、全体の仕組みが弱まっており、そのため今後はより多くの行動が見られるでしょう。 人々は、私の件を前例を作らないための教訓として受け止めるべきだと気づいています。 したがって、この政治的な闘いは確実に始まるでしょう。 私はヨーロッパ中から、実際には世界中から、多くのメッセージを受け取っています。 多くの人が非常に懸念していますが、特にヨーロッパの中でその声が強いのです。

もちろん、EUの人々はそのような決定の影響を直接受けるので、政治的な動きが起こるだろう。 スイス政府が何をしたいのか、あるいは何かをしたいのかどうか、私は正直なところまったく分からない。 その点についての手がかりは一切ない。 私は12月12日に、リストに載るかもしれないという知らせを初めて受けたとき、ブリュッセルの大使館に連絡を取ろうとした。 すでに説明したように、彼らは私に折り返しの電話をくれなかったし、3週間以上たった今でもまだ連絡はない。 ただし、ベネルクス地域に住む市民の領事保護を担当しているハーグのスイス大使館からは連絡を受けた。

しかし、スイスが何をしようとしているのか、私には知らされていません。 つまり、大使はEUの制裁に関するリンクをいくつか送ってくれました。 そんな感じでした。 彼女が私に話したのは二度だけで、それで終わりでした。 だからスイス政府が何をしたいのか、あるいは何かをしたいのかどうか、私は正確には分かりません。 一方で、スイスの市民の中には、多くの人が手紙を書いたり、請願を作成したり、署名を集めたりして、連邦評議会や外務大臣に私の件で行動を求めています。 この特定の状況で、スイス政府がどれほどの力を持っているのか、私は分かりません。 しかし、私を制裁リストから外すために、欧州連合とスイスの両方で政治的な動きがあるでしょう。

これ以外にも、もっと根本的な取り組みが必要です。 そして、あなたがしていることは非常に有益だと思います。 つまり、あなたやあなたのようなチャンネルはとても役に立っています。 なぜなら、このような形の提言こそが、人々に訴えかける最も効果的な方法だからです。 たとえば、私のフランスでの件を見てください。 私はフランス語を話しますが、ほとんど誰もそのことを知りません。 なぜなら、フランスのメディアは非常に沈黙しているからです。 ご存じのとおり、フランスのメディアはドイツ占領時代と同じようなものです。 政府が言えと言うことを言い、黙れと言われれば黙るのです。 それが現実です。 そして、まさに私の件でも同じことが起きています。 実際、フランスに住む私の家族でさえ、そのことを知らなかったのです。

#Pascal

なんて悲しいことだ。 本当に悲しい、すべてが。 ジャック、最後にもう一つ。 あなたを何とか支援したいという人たちがいます。 つまり、あなたの口座がすべて凍結されているし、送金するのもとても難しいでしょう。 でも、本当にあなたのために何かしたい人たちは、どうすればいいのでしょうか。 あなたに連絡を取るべきですか? 彼らはどうすればいいのですか?

#Jacques Baud

私の知る限りでは、現在スイスで、署名だけでなく私の件を支援するための資金も集める委員会が設立されているわけではありません。 この計画が今どの段階にあるのか、正確には分かりません。 もちろん、休暇の時期には思うように進めることができませんでしたが、今は動き始めるでしょう。 今後数日のうちに、もっと詳しい情報を得られると思います。 もし資金を集めることができるとすれば、それはEU域外の国でしか行えません。 したがって、北米で集めることが可能です。 カナダ、アメリカ、そしてもちろんスイスの人々から多くの申し出を受けています。 おそらく、資金が集められるのはスイスになるでしょう。 繰り返しますが、詳細については私はすべてを把握していません。 この件は他の人たちが担当しています。

私は本来、そのことを知っているべきではありません。 なぜなら、EUの規則によれば、誰も私に「資源」を提供してはならないからです。 その「資源」という言葉が何を意味するにせよ、人々は私に資源を与えることを許されていません。 つまり、私に食料を提供してくれる人たちでさえ——まあ、基本的な生活のための食料が、処罰や犯罪として扱われることはないだろうと考えています。 しかし、資源、特に金銭的な支援——たとえば送金など——を提供することはできません。 私たちにはお金がありません。私の口座は凍結されています。 そして、私にお金を渡すことは、その人たちにとって犯罪行為になってしまうのです。 ですから、スイスでこの資金が集められる場所について、私は皆さんにお知らせします。 それはスイスで行われます。 そして、住所と適切な連絡先をお伝えします。

#Pascal

そうですね、聞いている皆さん、下の説明欄を確認してください。 更新があれば、そこにも追加します。 すべてが整ったら、もう一度インタビューを行います。 他の場所にも投稿しますので、ぜひ

チェックしてください。 そしてもう一度言いますが、ジャックボーだけではありません。 ナタリーアムト、フセインドグル、他にもこのリストに載るかもしれない人たちがいます。 これは一人の問題ではなく、法の支配そのものに関わることです。 ジャックボーさん、この闘いを続けてくださって本当にありがとうございます。

#Jacques Baud

光栄です。お招きいただき、本当にありがとうございます。 そして、私の件を支援してくださっているあなたや皆さんのご尽力に感謝します。 ありがとうございます。ありがとう、パスカル。